



旭自治会 だより

令和5年2月1日 第58号 発行 旭自治会

TEL: 0771-22-5533

HPアドレス: kameoka-asahi.com (QRコード)



令和5年 早くも2月です

正月の新年行事が過ぎれば、中旬からは市議員の選挙、そして月末の週になったら10年に一度と言われる寒気で、今シーズン初の積雪が思わぬ豪雪となり各交通機関の混乱で多くの市民に影響が出た月末となり、あわただしく1月が過ぎ、早くも2月になりました。月日が経つのは早いねと言うのは何も歳末だけではないですね。

さて、最近マスコミでも連日取り上げられている、一般家庭をも襲う凶悪な強盗事件について、これがなんと「闇バイト」という聞きなれない犯罪者という驚き、凶悪強盗をお金で雇い入れる元締めが存在、もはや映画の世界のようなことが現実社会の中で行われている。この事件で犠牲者となられた方にお悔やみを申し上げますと同時に、犯人への憎しみ憤りは怒りしれません。この犯人たちはどのような心境なのか、わずかな報酬で強盗・障害致死とこんな巨大なリスクと、その見返りではいくら多額な報酬であっても絶対に均衡しないのに、なぜこのような犯罪に手を染めるのか理解できない。以前、凶悪な事件もゲーム感覚でやったという犯人の供述を新聞等を見たことがある、もしそうであれば、今氾濫する多くの情報や進歩するネット社会でそれを使いこなす人間の基本的なモラルが問われる時代と思う。この人間育成のために基本教育の重要性を見直したいものです。先日、テレビでストーカー犯罪を繰り返す人(加害者)を、更生させるプログラムで講義している、ある講師の方を特集していました。この犯罪は加害者が一方的に悪で被害者に全く原因は無い事件ではありますが、すべての犯人に共通するのは、例えば相手に無視されたという思いで、それを犯人が勝手に自分はその行為の被害者として認識し、全く加害者としての意識がないそうです。その身勝手な考え方を变えることにかなりのパワーが必要と講師の方が言われていました。

この世の中、様々なものの見方・考え方がありますが、相手の心を察して自分が考えながら行動する人間の育成が必要と感じました。

社会において、人間の頭脳の進化は、人間が考える便利さの機械や情報発信のその現実はまだまだ対応するのに進化が遅れて進むのかも知れません。

便利な道具は、また情報は、使いこなすためにもっと確かな「取扱者人格説明書」が扱う人間に必要なのではないかと思います。

2月は新年度に向かう計画を企画作成する時期、また5年度は各区で多くの役員・委員さんが任期満了により交代される年です、どうぞよろしく願いいたします。

2月は日も少なくすぐ過ぎます、月日は早く経つので、過ぎ去る前に行動をしたいものです。

旭町自治会長 吉川 肇

小正月の伝統行事 「とんど」 無病息災を願う

1月15日（日）亀岡市旭町各區で、正月に飾ったしめ縄などを燃やし、今年1年の無病息災を願う火祭り「とんど焼き」が行われました。



コロナ禍でもあるため、区によっては小さく役員のみで行われたところや3メートルにもなるやぐらが生まれ朝から夕方まで行われた地区もありました。また「とんど焼き」の火で竹で餅をはさみ焼いて食べたり、燃えた灰を持ち帰り家の廻りに



に撒き厄除けにするなど無病息災を念じました。

今年1年住民の皆さんが健康で穏やかな暮らしができますように・・・

そして亀岡市旭町が災害もなく穏やかな一年でありますように・・・



令和5年度 旭サポートカー

☆ 「旭サポートカー」の運行を始めて1年半が過ぎようとしています。本年度の運行回数60回以上、利用者数も約140名となっています（4月～12月）。令和5年度から利用曜日など少し変更し、さらに皆様にご利用しやすいものにと考えております。

亀岡市も高齢化が進行する周辺地域の高齢者への買い物や通院など住民の「生活の足」の確保や、地域の活性化への施策を重要と考えています。亀岡市の重点課題に早くから取り組んでいる「旭サポートカー」は、亀岡市でもモデル事業としてとらえて指導・助成を考えてくれています。

皆さんのご意見やご感想を参考にしながら進めていきますのでご忌憚のない声をお聞かせください。

令和5年4月より下記の利用曜日

- 美濃田区・杉区の利用者
毎週火曜日 午前10時～正午
 - 山階区・印地区の利用者
毎週水曜日 午前10時～正午
- 募集中 利用者・運転手・サポート委員
連絡は事務局 0771-22-5533 まで

2月行事お知らせ

- ・2月25日（土）「まほろば・亀岡かわひがし」を巡るウォークラリー
午前9時30分～午前11時30分 亀岡川東学園 集合
- ・2月25日（土）特別感謝デー なごみの里あさひ 午前9時から

「高齢者が元気な旭町」 その力になる

毎月第4水曜日 旭コミュニティセンターで行われている「歌声広場あさひ」月1回ではありますが毎回スタッフの方たちがより良い企画になるように話し合い工夫して行われています。

その代表である美濃田区「蔭山彰子」さん。旭町を元気づけていただいている一人ではないかと取材をお願いしました。

「歌声広場あさひ」は毎回20人以上の方が午後1時過ぎから旭コミュニティセンターに集ま



り、カラオケで

歌ったり、座ったままできる体操や脳トレなどとても楽しいようにされています。月1回ですが「待ちどうしいなあ〜」との声が聴けます。何より普段はあまり顔を合わさない方との会話が楽しいとのこと。昨年度より旭コミュニティセンターに移して開催されています。

彰子さんがサークルを始められたきっかけは、美濃田区に新しい2階建ての公民館が完成し『新しい公民館で、歌でも歌いたいねえ〜』との声上がり、歌うことが好きな彰子さんが声掛けをして始められ10年ほど続けられたそうです。

その後もコーラスにカラオケに亀岡第九にと形を変えて、ずっと歌とかかわってこられ、そうした時、「気楽に歌って楽しく過ごせる場所がほしいなあ」との声を聞き、杉区公民館で始まったのが「歌声広場あさひ」だそうです。



しかしコロナ感染症により一同に集まるのが難しくなって、このまま続けられるか？と話していたその時、自治会から広いコミセンで間隔を空けて実施したらどうですか？と提案がありました。またカラオケセットも寄付していただくなど条件が整い今があるのだと話されていました。

若いスタッフさんも増え内容を工夫して取り組まれています。しかしコロナ禍の3年は高齢者にとってはとてもマイナスになりました。今まで自分で来られていた人が歩きにくくなりデイケアセンターに通所されるなど気になる方が増えてきているとのこと。また、「コミセンまでは遠いわ〜」との声もあり、歌声広場あさひ専用のサポートカーが運行されました。

今後も高齢者が生き生きと少しでも健康寿命を延ばすため、月1回のこの広場を大切にしていかななくてはとの強い思いが感じられました。

彰子さんのお話を聞きながら、旭町を元気づける住民の一人であり、このような方がもっと増えていくといいなあと感じました。彰子さんは「今まで苦勞もあったが、喜んでくれる人と支えてもらうスタッフに恵まれているから頑張れる」と広い心と強い意気込みを聞かせてもらいました。この「歌声広場あさひ」へ、多くの方が参加され、「高齢者が元気な旭町」と言われるような街づくりが大切だと思いました。彰子さんのような方が、高齢者にとっては必要な方の一人であると感じながら取材を終えました。

